

令和8年度 事務事業評価シート（1）
[令和7年度事務事業]

特別会計					事務事業分類	A 一般事務事業	
事務事業名	認知症サポーター等養成事業				事業番号	011-069	
担当部署名	健康福祉局	局	長寿社会部	部	長寿支援課		課

I．基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画2025	施策との関連	有・無	戦略	2.人生100年時代の健康・福祉 ～Well-being～		施策	(4)高齢者が住み慣れた地域で心豊かに暮らし続けられる社会の実現	
			有	取組の方向性	④認知症支援策の推進				
		寄与するKPI	有・無	指標名	—				
			無	現状値	—		目標値	—	
	堺市SDGs未来都市計画2021-2025	施策との関連	有・無	ゴール	—		ターゲット	—	
			無	取組	—				
		寄与するKPI	有・無	指標名	—				
			無	現状値	—		目標値	—	
2	関連計画			堺市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（令和6年度(2024)～8(2026)年度）					
3	事業開始年度			平成 23 年度		点検対象年度（個別計画）		令和 8 年度	
4	実施根拠			認知症施策推進大綱・認知症サポーター等養成事業実施要綱・介護保険法・共生社会の実現を推進するための認知症基本法・認知症施策推進基本計画					
事業の概要									
5	事業の実施主体			堺市					
6	事業の対象			認知症高齢者とその家族等関係者 高齢者と関わりのある全ての市民・市内事業所等				対象数	単位
								—	—
7	事業の目的			認知症になっても安心して暮らせる都市をめざし、認知症に関する正しい知識を伝えることで理解を深め、日常生活の中で認知症の人に会ったときに、その尊厳を損なうことなく適切に対応することができる人を増やすこと。					
8	事業内容			認知症に関する普及啓発の推進として以下の項目を実施 ・高齢者が認知症になっても、住み慣れた地域で尊厳を持って生活できるよう、認知症について正しく理解し、認知症の方やその家族を温かく見守り支援する認知症サポーターの養成講座を開催 ・こどもたちにも年齢に応じて、認知症や福祉について学べるよう、学校の協力のもと、小中学生を対象とした認知症キッズ・サポーター養成講座を開催 ・認知症養成講座の講師役となる認知症キャラバン・メイトの養成					
	※国・府の基準より上回って実施した内容			—					
9	主な支出先			(社福) 堺市社会福祉協議会					
10	公民連携・協働事業			—					

Ⅱ. 事業目的の達成状況							
事業の成果や活動実績の測定							
11	成果指標	単位		実績		目標	目標 点検対象年度（個別計画）
	認知症サポーター養成数(累積数)	人		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和8年度
			目標値	94,300	101,000	103,000	103,000
			実績値	98,986	106,063		
		達成率	105%	105%			
	当該指標を選定した理由	認知症サポーターは認知症に関する知識を有し、認知症の方のサポートを行うことができるため、その養成人数は認知症施策の推進の評価指標とすることに適していると考えられるから。					
目標値の設定根拠・算出方法	堺市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の進捗管理で設定している目標値						
12	活動指標	単位		実績		目標	
	サポーター養成講座開催回数	回		令和6年度	令和7年度	令和8年度	
			目標値	114	140	148	
			実績値	137	158		
		達成率	120%	113%			
	当該指標を選定した理由	講座開催数の増加がサポーター養成数の増加につながるため。					
目標値の設定根拠・算出方法	過去2年の開催回数の平均実績から算出						

令和8年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	認知症サポーター等養成事業	事業番号	011-069
-------	---------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト						※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）							
13	財 源 内 訳	項 目	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度				
			決算		決算		当初予算		当初予算				
		事業費（a）		1,113		1,068		1,057		1,054		1,147	
		国支出金		428		411		406		406		441	
		府支出金		214		205		203		203		221	
		市債		0		0		0		0		0	
		その他（被保険者保険料）		256		246		243		242		264	
		受益者負担金(使用料、手数料等)		0		0		0		0		0	
一般財源		214		206		205		203		221			
14	人件費（b）		810		810		840		840		870		
15	年間経費（c）=（a）+（b）		1,923		1,878		1,897		1,894		2,017		
事業費の内訳												（単位：千円）	
16	事 業 費 内 訳	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	項 目	年度		事業費	うち 一般財源		
			R7	決算				R7	決算			R8	予算
		委託料			R7	決算					R8		
				R7	決算			R7	決算				
				R8	予算			R8	予算				
				R7	決算			R7	決算				
				R8	予算			R8	予算				
				R7	決算			R7	決算				
				R8	予算			R8	予算				
				R7	決算			R7	決算				
		R8	予算			R8	予算						

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費					
17		区 分	単位	令和6年度	令和7年度
	①	認知症サポーター年間養成者数	人	6,488	7,077
	②	上記①にかかる年間経費	千円	1,878	1,894
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	290	268
算出についての説明等		1人のサポーターを養成するのにかかる年間経費			

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見		
18	認知症サポーターやキャラバン・メイトの養成講座ともに数年間にわたって取り組んできたこともあり、認知症サポーターやキャラバン・メイトの数は増加し、令和7年度の目標養成数を大きく上回った。	
	高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に定められた令和8年度の目標103,000人を達成したが、引き続き認知症に対する正しい知識の普及に取り組み、幅広く事業の周知を実施する。	
KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）		
19	本事業において、認知症サポーター養成講座の実施等の取組を継続的に行った結果、認知症サポーター数は年々増加している。認知症を正しく理解した認知症サポーターが増えることで、高齢者が認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続ける社会の実現につながる。	
	よって、基本計画の取組の方向性である「認知症支援策の推進」に寄与したと考えられる。	
20	令和3年度からの実績等を踏まえた事業の必要性・有効性に係る所見（前年度の事務事業評価で点検対象年度を令和7年度とした事業のみ記載）	
	必要性	■ 高い
		□ 低い
		認知症サポーター養成者数の増加は、地域における見守りや支援体制の強化に繋がる重要な取組である。今後、認知症高齢者の更なる増加が見込まれる中、高齢者が認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会の実現に向け、必要性の高い事業である。
有効性	■ 高い	
	□ 低い	